

カードガードで先
ファイト！道を導
ト！～切り～
！数々開く
ヴァの

瑞田高光

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

「もしも先導アイチにこんな従兄弟がいれば……」

そんな作者の妄想から出来た作品です

※この作品は原作のアジアサーキット編のアイチのデッキがゴルパラに変わった翌日という設定です。

※時々オ리지ナルストーリーが入るかもしれませんが、その時は温かい目で見て下さるとありがたいです。

※基本的にこの作品は不定期更新となりますので、その辺はご了承くださいませ。

目次

プロローグ	1
新たななる先導者ゝ樹木との共闘	par 10
t 1	10
新たななる先導者ゝ樹木との共闘	par 20
t 2	20

プロローグ

世界には色々な人々が熱中するものがある。

サッカー……野球……アメフト……スポーツは国民のテレビで見る王道だろう。他にもトレーディングカードゲームなんかや流行りのゲームなんかもある……だが、この世界の人々は違う。彼等が特に熱中するのは………

ヴァンガード

ヴァンガードとは、トレーディングカードゲームではあるが、その競技人口は凄まじく、小さな子供からお年寄りまで楽しめる一大競技である。

また、世界大会等も開催される程の人気ぶりである。

そして今回注目するのは……日本の関東地方のとある町である。

ここは小さい町ながらもヴァンガードファイターなら知らぬ者は居ないカードショップがあり、そしてとても有名なヴァンガードファイターがいるのだ。

「ここがアイチのいる町かあ………楽しみだなあ！」

そして、今日この町にやって来た一人の少年こそが今回の物語の主人公である……

side 少年

「う〜ん……地図によるとこの辺りの筈なんだけど……」

初めまして！俺の名前は先導タスク。アイチとは従兄弟つて感じかな。

小さい頃はアイチとよく遊んでたんだけど……俺が引越すことになって……それ以来会ってないんだよなあ……

この前の年賀状には元気にしてるってあったけど……ちよつと心配なんだよなあ……アイチは小心者だから虐めとかされてないと良いけど……

ま、父さん（アイチのお父さんの弟に当たるよ）に頼み込んでまたこの町に戻って来れたのが一番嬉しいんだけどね。

……一人で、だけど。

「カードキャピタル……カードキャピタル……あ、此処かな？」

俺はとあるお店の前で立ち止まる……そして頭上を見上げれば『カードキャピタル』の文字……間違いないね。

「よーしー」

俺はフウツと軽く息を吐いて店内に入る……

店内に入るとスローテンポのクラシックのような音楽が流れていて店内はまだ昼3時を少し過ぎた程というのもありファイターの数はあまり見掛けない……

「いらっしやい」

と声を掛けられたのでそちらを見れば薄いピンク色のロングヘアをした澄まし顔の女性が店番をしていた……確かこの人は……俺は色んな記憶を掘り起こして……該当する名前を思い出した。

「どうも、『チームQ4』の戸倉ミサキさん」

するとミサキさんは少し目を見張って……

「……へえ、知ってたんだ。私のこと……」

「ええ……オラクルシンクタンク使いであり、(俺以上の)記憶力を利用したファイトはとても素晴らしかったですよ！(それに、アイチのいるチームだからね……キチンと覚えていて損は無いし)」

素直に褒めると少し顔を紅く染めている様に見えるもののスグに最初の顔になり……

「誉めてもらってありがとう。でも値引きはしないから」

「ありやりや……そりや残念」

思いがけないボケが飛んできたもんだから笑いながら乗っておく……

相手も軽く微笑んでいる……うん、可愛いな………

「……で、どの様な要件で？」

ふと最初の顔に戻ったかと思うとこんなことを聞いてきた。

まあ……何しに来たかって言う………

「ちよつと探し物と探し人をね。とりあえず誰も居なさそうだし、探し物からさせてもらおうかなつと………シングルってあれかな？」

そう言つてカウンター右のカードの入ったガラスケースを指差す

「そうだね、あと後ろのも一応そうだよ」

そう言つてミサキさんは俺の後ろ（今はカウンター越しに話している）を指差したの
で後ろを振り向くと、成る程後ろにも大きなガラスケースがあり、シングルカードが展
示されていた……流石は有名カードショップ………品揃え豊富だわ………前に行つて
た店、品揃えが悪かったからあんまり色々な種類を揃えれなかったからなく………

「ん、ありがとう。欲しいカードがありや呼べば良いのかな？」

「うん、見つけたら宜しく」

そう言われて最初は大きなガラスケースの中に入ってるシングルカードをしてみる

.....

「でも、珍しいね。普段結構殆どの人はブースターで探していくのに……」

後ろからミサキさんの声が聞こえてきたので探しながらも答える。

「うん、パックで当てるのも良いけど……ピンポイントならシングルカード買った方が安くつくからね。俺は結構そうさせてもらってるよ?」

「でも高いやつだと値段がバカにならないでしょ?」

「う……それは確かに、言ってるんだけどさ……でも、必死に探して見つけた1枚って大事にできるだろ?」

「素晴らしいながら目当てのものが見当たらないのでカウンター右横の先程の3分の1程の大きさのガラスケースの方へと移動する……」

「そういう人も居るんだね……」

ミサキさんがそう呟いているのを聞きながら探していると、俺は漸く目当てのものを発見した。

「あ、ミサキさん。このくメイデン・オブ・トレイリングローズと、くグラスビーズ・ドラゴン>を貰える? ちょうど1枚ずつ足りなくなってる……」

俺がミサキさんと呼ぶとミサキさんは「了解」と短く返してカウンターから鍵を手に取るとガラスケースの鍵を開けて俺が指定したカード2枚を取り出して再び鍵を閉め

る……そしてカウンターへ移動したので俺も支払いを済ませる為に移動する……………
「んと、トレイリングローズが190円で……グラスビーズが80円……2枚で270円だよ」

提示された金額は予想よりも安かったので内心ホッとする……

「了解。んと、はい270円。あ、レシートは要らないから」

俺は提示された金額と同額を手渡す……そしてミサキさんはなれた手つきでレジを済ませ、そのまま2枚のカードを手渡してくれた

「はい。珍しいね、ダブルレアのをピンポイントで欲しがる人なんてそんなに居ないのに……そりや、当たれば嬉しいがどきどき。」

「いやあ……主軸は持ってただけど……リアに必要なカードがどうしても足りなくつて……………」

俺はカードを受け取って苦笑いしつつもシオルダーバックから緑色のデツキケースを取り出して購入したカードをスリーブに入ってた2枚のカードと入れ換える……すると開きっぱなしのバックの中身をみたミサキさんは少し驚いた様子で聞いてきた

「へえ、あんたって……色んなデツキを使うの？」

それを聞いて俺は軽くカバンをポンと叩く。

「うん、やっぱり色んなデツキを使ってみないとそのデツキの特徴は掴めないからね

……最近作った……ってか完成ので言う……・グレートネイチャー・・グランブルー・・スパイクブラザーズ・、それとこの・ネオネクター・だね……他のはまだ手がつけていない状況だし……」

そう言いながらカバンにデッキケースをしまいそのカバンの口を閉めながら「今は新聞配達のアルバイトでそれなりに稼いでたから良いんだけどね」つい微笑んでしまう……と、その時……

「あれ？ミサキさん、お客さん？」

「うん、初めて来る人だよ」

と、懐かしい声でしたので振り向けばそこには昔より自信が有りそうな顔つきをしてはいるものの、懐かしい青髪の少し長めのストレートながらも特徴のある髪型で女の子っぽい顔があった……

「アイチ！久しぶりだね」

「え……タスク!?!」

アイチが驚きを隠せない顔になってるのを見て思わずクスリと笑ってしま……

「なんだなんだ？この男、アイチの知り合いか？」

「ん？アイチの親戚とか？」

と、その後ろから茶色の髪をしたいかにもガキ大將的な中学生（アイチと同じく灰色

の制服を着ていて話し方からして同級生だろう……」と、茶髪の天然パーマだと思われる髪型の中学生（以下略）が現れる……

「うん森川君、井崎君。彼はタスク……僕の従兄弟なんだ」

「初めましてだな、先導タスクって言うんだ。よろしくな！」

するとガキ大将風の中学生……森川と天然パーマの中学生……井崎、そしてミサキさんまでもが黙ってしまい……

『アイチの従兄弟（だと）（だって）!?!』

三人の驚きの声がシンククロして俺とアイチは互いに顔を見合わせて二人して苦笑いをするしか無かった……

「成る程なあ……」

俺の説明に森川はうんうんと頷いている……そして

「タスクとか言ったな？」

「え、そうだけど？」

突然名前を再確認されてちよつと驚きを隠せず答えただけど……どうしたんだ？

「俺様とファイトしろ！」

ファイトの誘いか……

「ああ、受けてたつよ。」

俺はそう言いながら緑のデッキケースをカバンから取り出し……少し口角を上げる
「新調したコイツの調子を見たいからね……」

「ちよ……ちよつと待つて!? タスク、ファイトしたことがあるの?」

するとアイチが慌てながら聞いてくる……そんなの決まつてるさ!

俺はファイトテーブルに移動しながらこう言った。

「無いぜ。正確には対人ファイトは無いって感じかな? ま、安心しろつて!」

「うう……分かったよ」

少し上目使いで見てるアイチ……おい、それだと益々女の子っぽくなるぞ?

……とは言わずに笑みを絶やさずデッキをカットする

「俺様の最強デッキが相手をしてやるぜ!」

互いにマリガンしていると何やら最強宣言が飛んできたので軽くあしらつておく。

「ほう、それはお手並み拝見と行こうか……」

『スタンドアップ! ヴァンガード!!』

俺と森川の掛け声がシンクロして店内に響く……さあ、この町での初めてのファイトだ!!

新たなる先導者～樹木との共闘～part 1

sideアイチ

……タスクはあんなこと言ってたけど、心配だなあ……………

「なあ、タスクのファイトの実力ってどうなんだ？」

井崎君が隣に移動して聞いてきたけど……………

「ううん、分からない。カードを集めているのは小さい頃から知ってたけど……………その時はまだ殆どデッキに出来る程じゃなかったし……………小学校に上がる前にタスクが引越したから……………」

「そっか……………」

と、井崎君が横で呟く……………

その間に二人ともマリガン（引き直し）が終わったらしい……………

『スタンドアップ！ヴァンガード!!』

そしてかけ声が響く……………

「<リザードランナー アンドウ>！」

リザードランナー アンドウ P6000

「＜アルボロス・ドラゴン 〃新芽〃＞！」

アルボロス・ドラゴン 〃新芽〃 P4000

えっと……確かあのクランはネオネクタールだっけ？ファーストヴァンガードは＜アルボロス・ドラゴン 〃新芽（ラトウーン）〃＞……

どんな動きをするんだっけ………連携ライドのデッキなのは何となく分かるけど……

「俺のターンからだったね。ドロロー！良し！＜アルボロス・ドラゴン 〃若枝〃＞にライド！幸先良く連携出来たな！」

アルボロス・ドラゴン 〃若枝〃 P7000↓8000

V

先攻はタスク………今ドロローした連携ライド先（らしい）の〃若枝〃（ブランチ）にライドした。

「ソウルに〃新芽〃がいるため永続パワー+1000で8000。そして〃新芽〃のスキル！デッキトップ7枚を確認して………〃樹〃か、〃聖樹〃がいれば手札に加えることが出来る………けど………」

そういつてデッキトップの7枚を見たタスクは溜め息をついてデッキに戻してシャッフルする………どうやら目的のカードは無かったらしい……

「〈カローラ・ドラゴン〉をコール！」

カローラ・ドラゴン P 8000

V裏

「…………え？」

思わず疑問の声をあげてしまった…………

タスク…………今は先攻1ターン目……………の筈だよな？

「ああ？なんで先攻1ターン目は攻撃出来ないんだぞ……………なのになんでバニラブースターを出すんだよ？」

「良いんだよ。俺はこれでターンエンド！」

タスク手札 4 ダメ0 / 6

V アルボロス・ドラゴン 若枝 P 8000

V 裏カローラ・ドラゴン P 8000

マケ…………カツミ手札 5 枚ダメ0 / 6

V リザードランナー アンドウ P 6000

わ…………分からない……………タスクの狙いが全く…………

「へえ、ソイツ中々の策士じゃないか」

ふと声が聞こえて後ろを振り向くと三和君がいつの間にか立っていた…………

「あ、三和君……どういふこと？」

僕は疑問に思ってた事を三和君にぶつける……するとニヤニヤしながらファイトテーブルに近付いて……

「なーに！ 次のソイツのターンになれば分かる筈だぜ？」

はぐらかされて結局教えてくれなかった……気になるなあ……

「＜鎧の化身 バー＞の最強アタックだ！」

鎧の化身 バーP8000

V

「うくん……ノーガードかな」

あ、いつの間にか森川君がグレード1にライドしてそのままアタックしていた……そしてドライブブチェック……あ！

「よっしゃ！ ＜槍の化身 ター＞！ クリティカルトリガーだ！ 効果は当然全てバーに！」

鎧の化身 バーP8000↓13000 ☆1↓2

鎧の化身 バー13000 vs 8000 アルボロス・ドラゴン // 若葉

ヒット タスク2ダメージ

「ありやりや、2ダメージか……ダメージチェック1枚目……＜グラスビーズ・ドラゴン

>トリガー無し……セカンドチェック………お、<四葉のフェアリー>……ドロートリガーだな。1枚ドロローして「若葉」にパワー。」

アルボロス・ドラゴン 若葉 P8000↓13000

結果的にダメージが2枚とも通って先制ダメージとしてはかなりの大打撃をくらったタスク……大丈夫なのかな？

「俺様はこれでターンエンドだ!!」

タスク手札5枚ダメ2/6

Vアルボロス・ドラゴン 若葉 P8000

V裏カローラ・ドラゴン P8000

カツミ手札6ダメ0/6

V鎧の化身 バーP8000

「俺のターン……ドロロー!」

そしてタスクのターンだけ……このターンに理由が分かるって………どういうことなんだろ？

「よし、俺は<アルボロス・ドラゴン 樹>にライド!そして「若枝」のスキル!コイツに「樹」がライドしたときに「新芽」がいれば、自分のフィールドのネオネクターのユニットを1体選択してデッキからスベリオルコール出来る!<カローラ・ドラゴ

ン>をスペリオルコール!!そしてコイツも 〃若枝〃 がソウルにいるため永続パワー+1000!」

カローラ・ドラゴンP8000

R左下

アルボロス・ドラゴン 〃樹〃 P9000↓10000

V

「なんだとっ!」

えっ!?!って事は毎ターン手札を使わずにリアガードが増えていくの!?!しかも下にコールしたって事は……!」

「更に、グラスビーズ、<ハイヨー・パイナツポー>をコール!」

グラスビーズ・ドラゴンP9000

右上

ハイヨー・パイナツポーP8000

R左上

一気に展開してきた……凄い!

「グラスビーズでアタックだ!」

「ノーガード!」

グラスビーズ・ドラゴン9000 vs 8000 鎧の化身 バー

ヒット

カツミ1ダメージ

ダメージトリガーチェックで落ちたのは「ヘル・スパイダー」……G3か……

あ、ちよつと森川君が落胆してる……

「ここでグラスビーズのスキル！このユニットのアタックがヒットしたため、CB2で1枚ドロー！」

タスク手札3↓4

しかも展開に使った手札の補充まで……抜かりが何一つない……

「続け！カローラで支援した「樹」でアタック！」

「ノーガードだ！」

「ドライブチェック……四葉……ドロートリガーだな。ドローしてパイナツポーにパワー」

ハイヨー・パイナツポーP8000↓13000

アルボロス・ドラゴン 樹 18000 vs 8000 鎧の化身 バー

ヒット

ダメージ

そして2点目のダメージが入る……トリガーはこない……でもまだ攻撃が残されている

「パイナツポーにカローラの支援をつけて攻撃！パイナツポーのスキル！ネオネクターのリアガードが4体以上だからパワー+3000！パワーは24000だ！」

ハイヨー・パイナツポーP13000↓16000↓24000

「んな!?受けるしかないだろっ!!ダメージトリガーチエック……<ドラゴンモンク ゲンジョウ>ヒールトリガーだ！ダメージを1枚回復！」

「チエツ……ダメージ逆転出来なかつたな……ターンエンド！」

結局ダメージは2点止まり……だけど、フィールドはタスクが有利だ。森川君……大丈夫かな？

タスク手札6枚ダメージ2（裏2）

Vアルボロス・ドラゴン 樹 P10000

V裏カローラ・ドラゴンP8000

R右上グラスビーズ・ドラゴンP9000

R左上ハイヨー・パイナツポーP8000

R左下カローラ・ドラゴンP8000

カツミ手札6枚ダメージ2

V鎧の化身 バーP8000

「俺様のターン……ドロー！<ドラゴンナイト ネハーレン>に俺様ライド！」

ドラゴンナイト ネハーレンP10000

V

あ、かげろうのバニラユニット。

G2のバニラユニットって扱いやすいから色んなデツキに入るよね。

「いけつ！ネハーレンでアタックだ！」

「受けるよー！」

ネハーレンP10000 vs アルボロスドラゴン 樹 P10000

ヒット

1ダメージ

タスク手札6枚ダメージ3 (裏2)

Vアルボロス・ドラゴン 樹 P10000

V裏カローラ・ドラゴンP8000

R右上グラスビーズ・ドラゴンP9000

R左上ハイヨー・パイナツポーP8000

R左下カローラ・ドラゴンP8000

カツミ手札7枚ダメージ2

Vドラゴンナイト ネハーレンP10000

互いにトリガーは出さず……そのままタスクのターンに……タスクの手札に居る

のかな？

「俺のターン……ドロー！……さて、森の主を呼び出すぜ！」

っ！やっぱり引いてた!!

「森の主よ……戦乱を沈める為に動き出せ！ライド！森の主たる龍！アルボロス・ドラゴン 〃聖樹〃！アルボロス・ドラゴン共通効果発揮！ 〃樹〃がソウルに居るため永続パワー+1000！そしてカローラ・ドラゴンを空いているリアゾーンにコール!!」

アルボロス・ドラゴン 〃聖樹〃 P10000↓11000

V

カローラ・ドラゴン P8000

R右下

……凄いとしか言いようが無いよなあ……あつという間にリアガードが埋まった……しかも、手札を殆ど使わずに……ってか手札が最初の時と変わらないんだけど……ここからどうなることやら……

新たなる先導者～樹木との共闘～part 2

前回までの場のおさらい

タスク ダメージ3 (裏2)

手札6

V : アルボロス・ドラゴン 〃聖樹〃 P11000

V裏 : カローラ・ドラゴン P8000

右上R : グラスビーズ・ドラゴン P9000

右下R : カローラ・ドラゴン P8000

左上R : ハイヨー・パイナツポー P8000

左下R : カローラ・ドラゴン P8000

カツミ ダメージ2

手札7枚

V : ドラゴンナイト ネハーレン P10000

「行くよーカローラのブースト…… 〃聖樹〃でアタック！」

「くっ……ノーガード！」

まあ、まだ2ダメだからね……それにしても「かげろう」かと思ったけど、ヘル・スパイダー”に”モンスター・フランク”……どんな構築をしてるんだろう……

「ツインドライブ……1枚目、パイナツポー。2枚目………同じくパイナツポー……トリガー無し、か………なら、カローラ支援のグラスビーズでアタック！」

ちなみに、相手のトリガーチェックではG3が落ちた。

「”槍の化身 ター”でガード!!」

防がれた……でも、まだ!

「パイナツポー! パワーは19000だ!!」

「ノーガード………トリガーは無しだ………」

うーん………何とも言いがたいなあ………

「仕方ないね………ターンエンド」

カツミダメージ4

手札7枚

V : ドラゴンナイト ネハーレンP10000

タスクダメージ3 (裏2)

手札8 (ハイヨー・パイナツポー×2)

V : アルボロス・ドラゴン ”聖樹” P11000

V裏：カローラ・ドラゴンP8000

右上R：グラスビーズ・ドラゴンP9000

右下R：カローラ・ドラゴンP8000

左上R：ヘイヨー・パイナツポーP8000

左下R：カローラ・ドラゴンP8000

「よっしやあ！ 俺様のターン、ドロー！」

さて、G3は色々見えてたけど……どのカードにライドするんだ……

「『ボータックス・ドラゴン』に、俺様最強ライド!!」

……ボータックス、か。メガブラストでリアを吹き飛ばす力を持つアイツだな。ダメは4だけど、ソウルはそんなに貯まってない……長引かせると厄介だな……

「ボータックスのスキルでソウルチャージして、パワー+2000だ!!更に、『ヘル・スパイダー』を2体コールしてCB2でスキル発動!! お前の前列2体をスタンドさせなくする!!」

つわ……コツちにCB使うか？ 普通……まあ、そっちの方が俺としては有り難いかな。

「バトル！ ボータックスで攻撃だ！」

前列はリア2体がスタンド不可になってる……ここは

「前列のグラスビーズとパイナツポでインターセプト!!」

2枚貫通だけど……どうだ?

「ドライブチエック! 1枚目……ボータックス……」

よし、貫通は無し!

「セカンドチエック……クリティカルトリガー! 効果は全て右のヘル・スパイダーに

!! トリガーの乗ったヘル・スパイダーでアタック!」

ここで受けてもダメージは5……もう片方はどうあがいても攻撃出来ないし……

「ここは甘んじて受ける。ダメージ1枚目……グラスビーズ……2枚目……ゲツト、ヒールトリガー! ダメージ量は回数だから1点回復してヴァンガードにパワーを」

俺は捲れたヒールトリガーの効果で裏返しになってるダメージゾーンのカードを1枚ドロップしておいた。これでグラスビーズ2回分のCBが用意できるな。

「くそっ……ターンエンドだ!!」

カツミ ダメージ4 (裏4)

手札7枚 (クリトリ1枚・ボータックス)

V : ボータックス・ドラゴンP12000↓10000

右上R : ヘル・スパイダーP10000

左上R：ヘル・スパイダーP10000

タスク ダメージ4（裏1）

手札8（ハイヨー・パイナツポ×2）

V：アルボロス・ドラゴン “聖樹” P11000

V裏：カローラ・ドラゴンP8000

右下R：カローラ・ドラゴンP8000

左下R：カローラ・ドラゴンP8000

とりあえずは凄いだ……って感じかな？ ダメージ量的にもあまり悠長に構えてられないし……そろそろ決着を付けるか。

「俺のターン……と同時に “聖樹” のリミット・ブレイク！」

「何っ!？」

「このタイミングで!？」

「まあ、永続効果のリミットブレイクだから4点貯まったときが本来なんだけど……ま、自分のターンにしか効果はそんなに関係無いし……ね？ ……では、改めて。そのスキルにより、自分のヴァンガード、又はリアガードのユニット全てに次の効果を与える。その効果は『同名ユニットがヴァンガードゾーン又はリアガードゾーンに居るとき、このユニットのパワー+3000を与える』効果!! 更にハイヨー・パイナツポ

を2体コール！ これで、同名ユニットがいるユニットの全てのパワーが上がる!!」

カローラ・ドラゴン×3 P8000↓11000

ハイヨー・パイナツポー×2 P8000↓11000

「ぜ、全員が単体パワー11000……!?!」

アイチがすごく驚いている……まあ、これがこのデッキの最高火力だもんな。

「ま、ダメージが3枚以下になったらこのスキルも消滅するけどね……バトル！ 右のパイナツポーでヴァンガードをアタック！ パイナツポーは己のスキルで更に強化される!!」

ハイヨー・パイナツポー P11000↓14000↓25000

「ふ、防ぎきれつかよ!! ノーガード!! ……くつ、トリガーはねえ!」

またG3……よく落ちるなあ……

「いけつ! 聖樹でヴァンガードにアタックだ!!」

「ぐつ……まだだつ! ゲンジョウとネハーレンでガード!! トリガー来るなら来てみやがれ!!」

攻) 11000+11000=22000 vs 25000=10000+15000

(防)

相手も大勝負を仕掛けてきた………なら、勝つ!!

「ドライブチェック……………1枚目……………」

捲けたのは……………G1アルボロス……………トリガーではない……………

「2枚目……………」

周り（アイチ達やミサキさん）が静かになっている……………自分の心臓の鼓動が凄くよく分かる……………これで貫通するか……………どうか……………！

「っ!!」

捲れたカードを見て、ファイト相手は固まり、俺は思わず口元が緩んだ。

「……………2枚目、《ダンガン・マロン》……………ゲット、クリティカルトリガー!! 当然、効果は全てヴァンガードに!!」

ここでのクリティカル……………どうやら、ファイトの女神は俺に微笑んだ様だ……………
「ぐっ……………まだだ! ダメージチェック! 1枚目……………《槍の化身 ター》……………」

捲られたのはトリガーでも、クリティカルか……………なら問題ない

「まだだっ! 2枚目……………!」

そして2枚目に捲られたのは……………

「……ポータックス………クソッ！」

G3………決まった。

win先導タスク

「な、何故だ……星占いは最高だったはず………次は名前占いで試してみるか………
………このカツミ（………だっけ？）って人のデツキ……ヤケに、G3多かったな
………心配になるくらい。まあ、良いか。俺はデツキを片付けると、アイチの顔の笑
みがすごいファイトを見たって感じの顔になってるのに気付いた。アイチはまだ興
奮冷めやらぬって感じに話し掛けてきた。

「凄いや、タスク！ プレイングが本当に凄かったよ!!」

「いやいや……俺のデツキが答えてくれたから…………って感じだね」

俺が苦笑いで返すと、そばにいた黄色に染めてるのか？って感じの髪をした制服姿の
青年が居ることに気付いた。

「貴方は？」

「んあ？ 俺かい？ 俺は三和 タイシってんだ。宜しくな！」

自分に話し掛けられてる事に気付いた青年（多分年上かな？）………タイシさんは軽く

ポーズして名乗ってくれた。……………ちよつとキザだけど、知識人っぽいね。

「先導タスクです。アイチとは、従兄弟なんです。よろしくお願いします」

「へえ、アイチに従兄弟が居たのか……宜しく頼むぜ」

「そうだ！ タスク、僕の家に来たらどお？ 母さんやエミに顔出しに来たら？」

「うん、そうさせてもらおうよ」

アイチが名案を思い付いたかのように俺に話し掛けてきたから、俺もそれに乗った。実は、俺はこれからアイチの家に厄介になるんだけど……アイチにはその旨を伝えてない。アイチってからかい甲斐あるもんなあ……………ん？ でも、この様子だとまだ知らないのかな？ アイチのお母さんには伝えた筈だけど……………

ま、いつか！

「それじゃあ、俺はアイチと共に帰らせてもらおうかな？」

「それじゃあ……みんな、またね！」

そういうわけで俺とアイチは一緒に家へと帰る事になった。

家に帰って、俺と一緒に住む事を知った時のアイチの顔は……………うん、傑作だった。驚きっぷりが半端なかった。